

都市再生整備計画(第9回変更)

こまつちゅうおう
小松中央地区

いしかわ こまつ
石川県 小松市

令和8年1月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	石川県	市町村名	こまつし 小松市	地区名	こまつちゅうおうちく 小松中央地区(都市構造再編集集中支援事業)	面積	155 ha
計画期間	令和 2 年度 ~ 令和 7 年度	交付期間	令和 2 年度 ~ 令和 7 年度				

目標

- 【大目標】 ”南加賀のターミナルにふさわしい魅力と快適性に恵まれたみんなが学び活力あふれるまちづくり” (南加賀をリードするまち)
- 目標1:『交流機会の拡大』・・・北陸新幹線開業に合わせた駅周辺の整備により観光客数の増加を図り、学びの場を整備することで交流拡大を目指す。
- 目標2:『都市機能の充実』・・・人々が集い賑わう魅力的な都市機能を集積し、文化・芸術の香る歩きたくなるまちづくりを図る。
- 目標3:『まちなか居住の促進』・・・魅力ある地域づくりを継続することで、まちなかの賑わい再生を図る。

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

本市では、JR小松駅を中心とした中心市街地の人口減少、商店数減少に加え、小松駅周辺に立地していた本市の基幹産業である「製造業」のコマツ小松工場が平成22年3月に閉鎖し、さらに小松駅前に立地していた民間商業施設の大和小松店が同年6月に閉店したことにより、中心市街地の商業機能、都市の求心力が低下し、賑わいが失われている。

こうした中で、駅東側のコマツ小松工場跡地では、コマツが研修センターや市民公園を整備するとともに、多くの子供たちが集い、理科や自然・ものづくりを身近に体験できる施設として本市が「サイエンスヒルズこまつ」を整備した。

また、駅西側は歴史と文化が集う地区であり、曳山子供歌舞伎や寺院等の伝統的な建築物や旧北国街道沿いの歴史的な町並みが存在しており、その情報を発信し交流人口の拡大を図るため「曳山交流館」も整備した。

里山・奥山から海岸に至るまで変化に富んだ魅力ある自然環境を有した本市は、「市街地形成エリア」「田園環境保全エリア」「自然環境保全エリア」に大別される。豊かな自然環境や優良農地の保全に努めるとともに、効率的な都市基盤整備と計画的な市街地形成に努めるため、無秩序な市街地拡大を抑制し、コンパクトシティの形成を目指している。

特に「市街地形成エリア」の中でも、JR小松駅を中心とした一帯を「都市再生ゾーン」と位置付け、旧来からの中心市街地と新しい市街地の相互の連携を図るとともに、商業機能のみならず、居住機能や行政、医療、福祉、教育等の多様な都市機能の集積を図り、すべての人々にとって便利なコンパクトな日常生活圏の形成を目指している。

近年、本市でも「既存施設の運営維持管理費用の増加」や「既存施設の老朽化に伴う更新・改修費用の増加」が問題視されている。

これらを背景に、小松中央地区では、公的不動産の活用策として民間や公共が保有する低未利用地を活用して、さらなる集客の核となる商業施設、教育施設及び宿泊施設を合築で整備することにより、都市機能の拡散防止と中心市街地の拠点性を高める。

旧大和小松店跡地の低未利用地において、商業施設(物販のほか、親子3世代が楽しみながら学べる体験型施設、図書館機能を有したカフェ等)及び教育機能を有する大学(郊外にある短期大学と看護学校を統合した公立4年制大学)が入る民間活力を活用した官民複合施設を整備した。今後においても駅周辺において子育て支援機能をはじめ、商業、行政、福祉、教育等の都市機能のさらなる拡充と集積を図る。また、駅西側においては、歴史文化資産の活用、景観形成等による質の高い都市の形成及び市民が主体となった活気ある都市の再構築により中心市街地の拠点性を高め、賑わい創出や活力増進を実現する。

まちづくりの経緯及び現況

小松中央地区は、小松城(現在の芦城公園)の城下町(宿場町)として栄えた本市の中心市街地である。小松空港を有する南加賀地域の中心として、歴史的にも市民の意識の中でも「まちの顔」であったが、中心市街地の人口や商店数の減少により、賑わいが失われている。一方、JR北陸本線の連続立体交差事業、小松駅東西の土地区画整理事業、都市計画道路の整備、小松駅における官民複合拠点施設整備など、本地区の様相を一変とさせる大規模なプロジェクトの進捗により、これらを契機に「まちづくりや福祉」など様々な分野で活動しているNPO法人やボランティア団体等により、小松うどんなど、新たに「食」を取り入れた試みや、歴史資産である町家の保全に関する活動など、中心市街地の活性化に向けた”市民活動”が盛んとなっている。

また、小松駅周辺は、北陸新幹線小松開業を控え、人々と文化が行き交う南加賀のターミナルとしての機能を高め、さらに「学びのゾーン」として進化している。駅東エリアでは「科学とひとづくり」をテーマに、駅西エリアでは、歌舞伎をはじめとする伝統芸能や町家など町衆文化・伝統文化が息づく「歌舞伎のまち」をテーマにまちづくりを行っている。

課題

- ・本地区で開催されている全国的に有名な「お旅まつり」では約30万人の来街者があるが、各施設の利用者増加や地域経済の活性化に繋げるためには、地区内に点在する歴史的な地域資源のネットワーク化を推進する必要がある。
- ・北陸新幹線の停車駅に予定されているJR小松駅では、通勤通学者をはじめ、買物客、観光客を含め、平成30年度に約165万人/年(定期及び定期外)が利用しているが、駅前周辺の市街地の衰退が進行している。平成29年度に整備した小松駅前における商業施設、教育施設並びに宿泊施設を有した官民複合拠点施設をはじめとしてまちなかの賑わい創出、活力促進、中心市街地の拠点性向上を図るため、早急に環境整備(ハード、ソフト)を行う必要がある。
- ・小松市には、小松空港などを利用して約380万人/年(平成28年)の観光客が訪れているが、駅前周辺には来訪者が集う交流施設・空間が少なく、市民や観光客が憩い、交流を促すための施設整備が必要である。

将来ビジョン(中長期)

小松市都市計画マスタープラン(平成31年3月改訂)

【基本理念】新時代をリードするまちづくり ～みんなが学び活力あふれる国際都市こまつ～

【基本目標】①こまつの魅力づくりと交流推進 ②空路・鉄道・道路の優れたアクセス力 ③北陸の成長を牽引する産業都市 ④すべての人々にやさしいスマートな共生のまちづくり
⑤もっと便利に、もっと快適に、もっと安全に ～くらしの質の向上を～ ⑥豊かな自然、まちなみ、歴史文化を活かした都市景観の形成

都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

中心市街地は、様々な都市機能の集積による生活利便性を踏まえ、コンパクトシティの実現に向けて、土地利用の効率化やまちなか定住促進のための環境整備、公共交通の活性化等の推進を図る。
また、北陸新幹線小松駅開業を控え、南加賀の玄関口にふさわしい基盤整備や交流空間の整備を推進し、多くの人が集い、賑わいと魅力のある都市空間の創出を図り、都市としての拠点性の向上を目指す。
郊外部は、良好な農業環境を保全しつつ、景観形成に配慮し、主要幹線道路の沿道利用や既存住宅地や集落における生活道路、身近な公園の充実により、生活環境の維持・向上を図り、うるおい豊かな環境の中で快適に暮らせる地域づくりを図る。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方

郊外部を含めた広域的な地域生活圏全体の居住者の利便性を維持・確保するとともに、中心市街地における定住人口や交流人口の拡大を図るため、「医療施設」、「教育・文化施設」、「商業施設」、「行政施設」、「グローバル施設」を都市機能誘導施設とした。この他、市民サービスの提供や地域コミュニティの維持を図る重要施設として、複合拠点施設と一体となったブックカフェ及び公共機関が運営する体験型教育施設を都市機能誘導施設とし、これらの誘致を図るためJR小松駅周辺市街地に都市機能誘導区域を設定した。
これまでに旧大和小松店跡地を活用して商業施設(物販のほか、親子3世代が楽しみながら学べる体験型施設、図書スペースを有したカフェ等)と公立4年制大学を整備し、これらと既存施設との連携による学びの場や子育て支援の場の集積により、定住人口や交流人口の拡大とともに賑わい再生や活力増進を図っている。また、北陸新幹線の開業効果や小松空港からのビジネス・観光客等の増加を見込み、JR小松駅に隣接する立地条件を活かして、周辺公共ホール等を活用したMICE開催にも対応できる宿泊施設を民間活力を活用して整備した。
今後においても誘導施設の整備を含めた都市機能の集約を進め、地域住民と来訪者双方が魅力を感じられる賑わいある中心市街地の創出に寄与するとともに、集約型都市構造を実現する。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
1. 駅周辺施設の利用者数	人/年	小松駅周辺施設の利用者数の比較	駅周辺施設の利用者数により駅周辺の交流人口が推定される。目標値は、人口減少や商店数の減少により賑わいが失われている中央地域において、小松駅南ブロック複合施設の活用等今後の事業効果により、中心市街地の魅力が向上し交流人口増加に寄与することを示す。	533,500人/年	H30	618,500人/年	R7
2. 小松駅利用者数	人/年	小松駅利用者数(定期外)の比較	都市機能が集積し、地域コミュニティが活性化すれば小松駅の利用者数が増加すると考える。北陸新幹線小松開業も見据え、目標値は小松駅利用者(定期外)の増加により地域コミュニティが活性化されることを示す。	720,800人/年	H30	889,500人/年	R7
3. 中央地域の人口	人	中央地域における人口の比較	中央地域の人口を指標とすることで、『まちなか居住の促進』状況が示される。目標値は、中央地域において、小松駅南ブロック複合施設の活用や、駅周辺施設の整備によって中心市街地の魅力が向上し、今後の定住人口の増加に寄与することを示す。	18,326人	H30	18,556人	R7

整備方針等

様式(1)-③

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1:『交流機会の拡大』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北陸新幹線小松駅開業に合わせ、駅周辺及び寺院、町家、土蔵等の歴史的な施設を結ぶ歩行ネットワークの整備により、まちなかにおける交流人口の増大を目指す。 ・小松城跡や寺社、旧北国街道沿いの街並み等の歴史文化資源の保全を図る。 ・世代や立場・組織を超え地域で活躍する担い手育成や、地域課題解決を目的とした協働活動実施等のため、様々な学びの機会を提供する。 	<p>道路(基幹事業/市道龍助町九竜橋線)、地域生活基盤施設(基幹事業/ユニバーサル案内サイン整備、小松駅周辺路面案内サイン整備事業)、道路事業(関連事業/【県】小松鶴来線)、市民大学事業(関連事業/市民大学推進事業、関連事業/地域連携事業)、民間事業者等(小松駅東地区北陸電力複合ビル整備事業)</p>
<p>整備方針2:『都市機能の充実』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本地域においては、商業・教育、行政・医療福祉等の都市機能の集積を活かし、中心性の向上を図るとともに、JR小松駅周辺、旧来からの市街地、新しい市街地の連携により拠点性を高め、賑わい創出や活力増進に取り組んでいく。 ・JR高架下については市民交流施設の整備を図ってきており、今後も駅利用者や周辺市街地の利便性向上、賑わい創出を図る。 ・JR小松駅については、北陸新幹線小松開業に合わせ、新たな交流人口の拡大に対して駅周辺の空間を修景施設のネットワークで形成するため、シンボルツリーや修景ベンチがある広場、街路樹の整備等、小松市に訪れる歩行者の誘導や待ち合わせの場を演出する。 ・能登半島地震により、安全性が損なわれた既存公共施設の除却により、歩行者等の安全を確保する。 	<p>道路(基幹事業/小松駅西広場整備)、高質空間形成施設(基幹事業/小松駅周辺シェルター整備、小松駅周辺植栽整備、小松駅周辺歩行者空間整備事業、小松駅高架下トイレバリアフリー化整備事業、小松駅周辺イルミネーション整備事業)、高次都市施設(基幹事業/観光交流センター(小松駅高架下整備))、誘導施設(基幹事業/元地の管理の適正化(既存施設除却(公会堂・博物館))、地域創造支援事業(歩行者調査用計測器設置)、まちづくり活動推進事業(提案事業/市民共創プラットフォーム)、民間事業者等(小松駅東地区北陸電力複合ビル整備事業)</p>
<p>整備方針3:『まちなか居住の促進』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の活性化を目的に、地域交流の担い手となる居住者を増やすため、町家再生や土地共同化等により定住を促進し、市街地の核としての土地利用を推進する。 	<p>地域創造支援事業(提案事業/まちなか定住促進事業)</p>

その他

● 上位計画:

- 小松市都市デザイン(平成27年10月策定)
 - 【都市デザイン】北陸の際立ったまち「国際都市こまつ」
 - 【都市デザインの視点】①変革と成長しつづけるひととまち ②進化する科学技術が躍動するひととまち ③新たなライフスタイルを楽しむひととまち ④チャレンジしつづけるひととまち
- NEXT10年ビジョン 2ndステージアクションプラン(平成28年1月策定)
 - 【都市政策に関わる主な取組】①はつらつとしたひとづくりで、まちの活力と未来を創生 ②たくましい財政、市民から信頼される市役所を創生 ③女性や若者、多様な人びとのしごとを創生 ④こまつでの、市民の幸せなライフステージを創生 ⑤アクセスを活かし、新しい産業や文化、くらしを創生
- 小松市都市計画マスタープラン(平成21年3月策定、平成31年3月改訂)
 - 【基本理念】新時代をリードするまちづくり ～みんなが学び活力あふれる国際都市こまつ～
 - 【基本目標】①こまつの魅力づくりと交流推進 ②空路・鉄道・道路の優れたアクセス力 ③北陸の成長を牽引する産業都市 ④すべての人々にやさしいスマートな共生のまちづくり ⑤もっと便利に、もっと快適に、もっと安全に ～くらしの質の向上を～ ⑥豊かな自然、まちなみ、歴史文化を活かした都市景観の形成
- 小松市立地適正化計画(平成29年3月策定、平成31年3月改訂)
 - 【基本方針】交通結節点での都市機能の維持・充実による魅力・賑わいの創出
市街地の暮らしやすさの維持・向上
市内公共交通の充実、利便性の向上

● 街並み形成の誘導を図るための方策

中心市街地における地域特性に応じた歴史的・近代的な街並み形成の指針として「小松市景観(まちづくり)ガイドプラン」に沿った街づくりを実現するため、『小松市景観条例』を平成21年12月から施行した。「材木町歴史文化回廊まちづくり協議会」、「龍助町・西町北国街道まちなみ協議会」では、当条例に基づき良好な歴史的街並みを保全するため、地元住民・関係者とともに、研究・協議が行われている。

『材木町歴史文化回廊まちづくり協議会』の概要
材木町地区は、歴史的なたたずまいを残し、今後も良好な街並みを継承し、将来にわたる良好な環境を形成するために地区住民、関係者が集まり、当地区のまちづくりについて研究、協議を行うとともに、関係団体と協力して地区の活性化と快適なまちづくりの推進を図る。

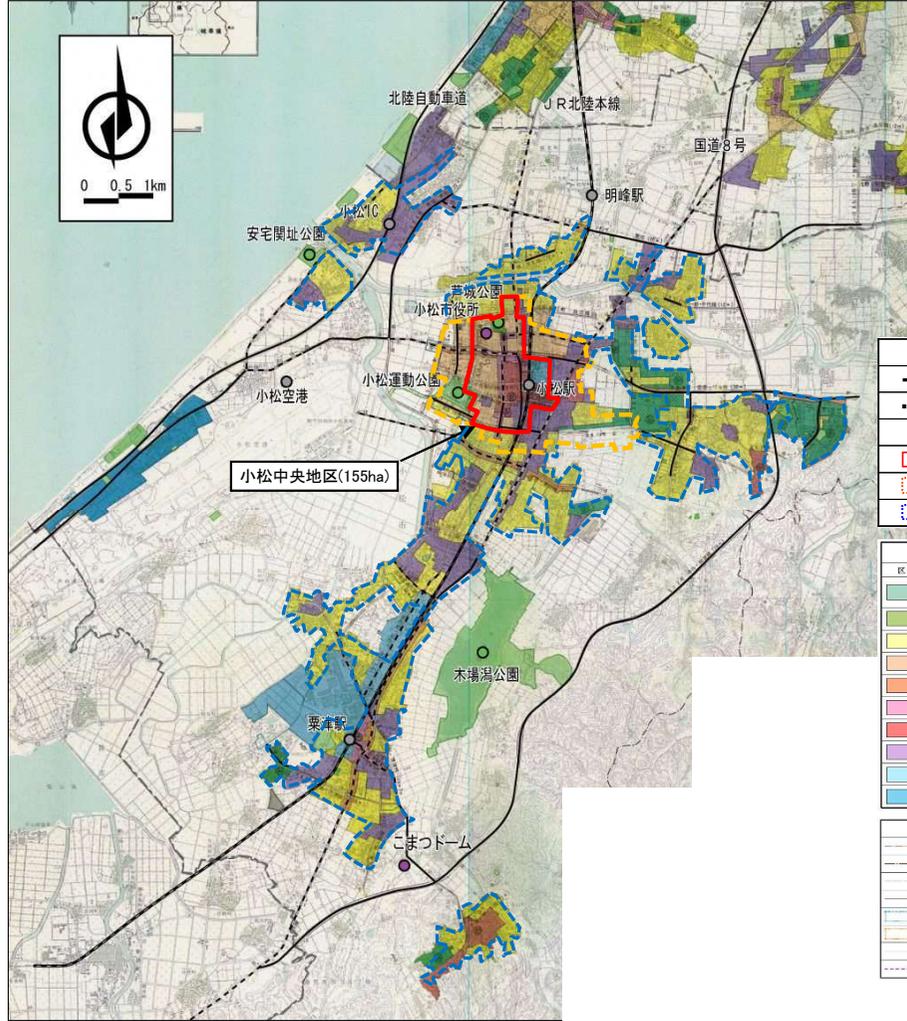
『龍助町・西町 北国街道まちなみ協議会』の概要
北国街道の歴史的なたたずまいを残し、将来は、安全で快適な歩行者空間の確保、景観の向上、防災性の向上を図るため、地区住民が主体となって、当地区のまちづくりについて研究、協議を行うとともに、賑わいのあるまちづくりの推進を図る。

都市再生整備計画の区域

様式(1)-⑥

こまつちゅうおうちく いしかわ こまつ 小松中央地区(石川県小松市)	面積 155.0 ha	区域 浮城町、大川町三丁目、御宮町、京町、小寺町、小馬出町、細工町、材木町、新町、新銀冶町、新大工町、鷹匠町、地子町、殿町一丁目、殿町二丁目、中町、浜田町、松任町、丸の内町、丸の内町一丁目、丸の内公園町、相生町、旭町、戸田町一丁目、鈴屋町、上寺町、上本折町、こまつ杜、栄町、清水町、末広町、寺町、土居原町、西町、錦町、白山町、東町、日の出町一丁目、日の出町二丁目、日の出町三丁目、日吉町、古河町、本町、本銀冶町、本大工町、三日月町、本折町、大和町、八日市町、八日市町地方、龍助町、西本折町、向本折町
--	----------------	--

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



凡 例	
—	整備済道路
.....	概成済道路
○	主要施設
□ (Red)	都市再生整備計画区域
□ (Dotted)	都市機能誘導区域
□ (Blue Dotted)	居住誘導区域

凡 例		
区 分	地 域 名	建ぺい率 容積率
■ (Green)	第一種低層住居専用地域	30% 80%
■ (Light Green)	第一種中高層住居専用地域	50 100
■ (Yellow)	第二種住居地域	60 200
■ (Orange)	第三種住居地域	80 200
■ (Light Orange)	準住居地域	60 200
■ (Pink)	近隣商業地域	60 200
■ (Red)	商業地域	80 500
■ (Purple)	準工業地域	60 200
■ (Light Blue)	工業地域	60 200
■ (Dark Blue)	工業専用地域	60 200

凡 例	
— (Solid)	行政区域境界
— (Dotted)	都市計画区域
— (Dotted)	市街化区域
— (Dotted)	用途地域界
— (Dotted)	特別工業地区
— (Dotted)	消防防犯地域
— (Dotted)	第一種風災被害軽減区域
— (Dotted)	新都市道路
— (Dotted)	公園・緑地
— (Dotted)	調整池及び非灌漑
— (Dotted)	その他施設
— (Dotted)	都市計画決定に係る民間事業区域
— (Dotted)	地区計画
— (Dotted)	第一種風災被害軽減区域